

# イデックスオイルレポート ~For a week~

（株）新出光

## 【概況】

●17日、イスラエル政府は17日、パレスチナ自治区ガザでの停戦合意を巡り話し合う治安閣議を開いた。全体閣議で合意を承認する見通しで、イスラエル首相府は声明で、承認されれば「計画に従って19日に人質解放が実施される」との見解を表明した。これを受け、中東情勢を背景とした供給不安が幾分後退し、原油は売りが優勢となり相場は77.88ドルへ続落した。

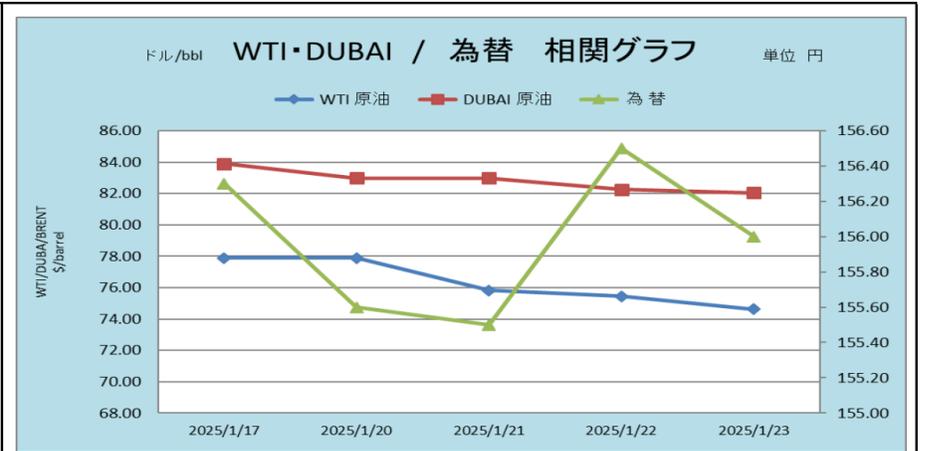
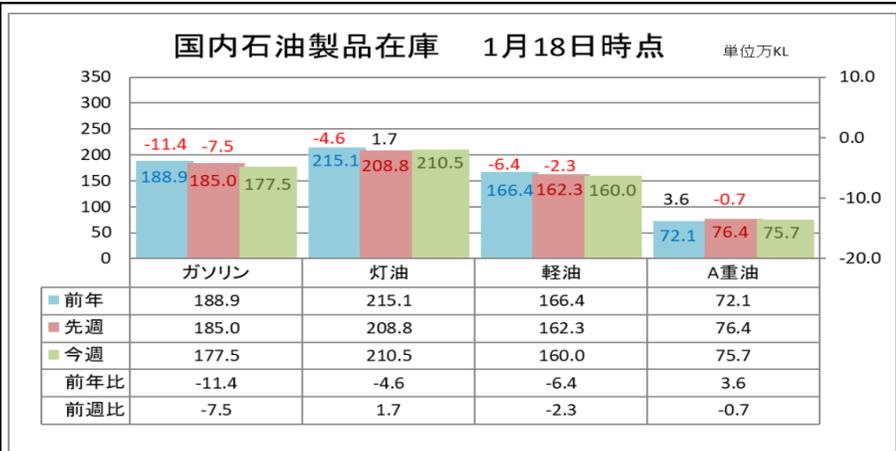
●20日、キング牧師生誕記念日のため休場。

●21日、20日に就任したトランプ米大統領は、エネルギーの国家非常事態を宣言。化石燃料の増産を可能にし、物価引き下げを目指す考えを明確にした。米国における生産量がすでに記録的な水準にある中で、需給が今後一段と緩むとの観測が強まった。また、米エネルギー情報局(EIA)は20日付のリポートで、2025、26年は原油価格の低下を見込んでおりと再確認した。ロイター通信は20日、イエメンの親イラン武装組織フーシ派が、パレスチナ自治区ガザにおける停戦発効を受け、商船への攻撃をイスラエルと関連がある船舶に限定すると報道した。これを受け、紅海周辺の地政学的リスクを背景とした過度の供給不安が和らぎ、原油が売られ相場は75.89ドルへ続落した。

●22日、トランプ大統領は21日、中国製品への10%の追加関税の検討や欧州連合(EU)製品への追加関税に言及。22日にはSNSでロシアがウクライナ停戦交渉に応じない場合「他の参加国」と協力し、「最高水準の税金、関税、制裁をするしかない」と投稿した。ただ、具体的な措置は依然不透明であり、警戒感から相場は売りが優勢となり75.44ドルへ続落した。

●23日、トランプ氏は23日、スイス・ダボスで開催中の世界経済フォーラム(WEF)年次総会(ダボス会議)にオンラインで参加し、サウジアラビアと石油輸出国機構(OPEC)に原油価格の引き下げを求める意向を示した。同氏は「現在の価格は(ロシア・ウクライナ)戦争継続を可能にするほど高い水準にある。原油価格を引き下げる必要がある」と話した。75ドル台後半で推移していた相場は講演後、74ドル台前半まで一気にレンジを切り下げる場面があり相場は74.62ドルへ続落した。また、トランプ氏は関税やエネルギー政策についていまだ具体的な措置を発表していない。同氏の政策を巡る不透明感が世界の経済成長やエネルギー需要に悪影響を与える可能性があるとの連想も相場の重荷となっている。

1月24日 16:00現在 WTI原油 74.56ドル 為替 1ドル 157.33円



	次回元売変動予測	
	1/30~	元売変動予測
ガソリン	→	-1.0~-1.5
灯油	→	-1.0~-1.5
軽油	→	-1.0~-1.5
A重油	→	-1.0~-1.5
LSA	→	-1.0~-1.5

## 【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+4.5円」、補助金は、「-21.5円・0%」、都合「-0.5円」の改定となった。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの20日時点の小売価格平均は185.1円となっている。

《1月30日以降》次回の元売り改定は、原油コスト(OSP含む)は「-2.5円~-3.0円」、激変緩和補助金は「-20.0円・0%」の見込みで、都合「-1.0円~-1.5円」の改定予測となっている。

※原油コスト「-2.5円~-3.0円」  
 ※激変緩和補助金「-20.0円」前週比+1.5円  
 ※現時点での予測です。

## 【次世代エネルギー】 < ユーグレナ社、HVO51%混合の次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」を開発 >

株式会社ユーグレナは、次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」を開発し、供給を開始した。この燃料は、HVO(Hydrotreated Vegetable Oil、水素化植物油)を51%混合しており、軽油規格に適合することでディーゼルエンジンの公道走行が可能である。「サステオ」は、既存の軽油と混合して使用でき、CO2排出量削減に大きく貢献することから、脱炭素社会の実現に期待されている。ユーグレナは、マレーシアでバイオ燃料商業プラントを建設中で、さらに微細藻類由来油脂の大規模生産も展開している。

また、HVOの需要拡大に対応するため、国際持続可能性カーボン認証を受けるEcoCeres社とパートナーシップを組み、HVO供給のパートナーとして活動している。「サステオ」はISCC認定を受けた持続可能な燃料であり、実際に使用することで、より効率的にCO2削減を実現する手段として評価されている。エネルギー利用の合理化を促す改正省エネ法に基づき、非化石エネルギー自動車としての利用も可能で、特定輸送事業者などが中長期計画書で報告することが求められている。

さらに、いすゞ自動車のシャトルバスでも「サステオ」が使用され、走行に問題がないことが確認されている。ユーグレナは、マレーシアや日本国内でのバイオ燃料の普及に努め続け、技術開発を進めていく。

【出典】ユーグレナHP

<https://www.euglena.jp/news/20241218-3/>